





特定有人国境離島地域の社会維持の施策推進に関する 分科会委員による現地調査

隠岐諸島	10月19日～21日	小島委員、奥田委員(海士町のみ)
五島列島、対馬	11月7日～9日	阿比留委員、斉藤委員

委員による調査(隠岐)

	項目等	コメントの概要
水産業	白イカ (西ノ島) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産品である白イカについては、「由良比女命にお詫びをするために、白イカは、群れとなり、西ノ島の由良の浜に押し寄せるようになった」という伝説がある。こうしたストーリーとともに、産品を売り出すと効果的 
農業	隠岐牛 (隠岐全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のブランド牛である隠岐牛は、東京の食肉市場で高い格付けを得続けることで、ブランドとしての価値を確立 ・地元でも隠岐牛を食べられる飲食店があるが、島には屠畜場がないため、東京で肉になったものを再度輸送する必要があることは課題 
観光	風景(隠岐全域) 食事(隠岐全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・「風景」はそれ単独では、観光客に対してリピーターの呼び込みには効果が低いですが、田園風景など、その風景を形成する営みの体験と合わせて経験することで、その効果を増すことが可能。 ・「地のもの」を食べることができる店舗等の存在は必須であり、滞在型観光による活性化のためには、「おいしい朝食」の提供が必要 
その他	積極的な外部人材の受入れ(海士町) 教育(島前)	<ul style="list-style-type: none"> ・海士町では地域活性化のため、外部からの人材を積極的に招聘しているその一部が島を気に入って入り、定住している ・地域資源を活かしたふるさとキャリア教育や地域課題解決型学習を取り入れた教育で、島外からも意欲ある子どもたちが「島留学」に来ると共に、教育移住にもつながっている

委員による調査(五島・対馬)

	項目等	主な指摘事項
水産業	アオサ(五島) 漁業者(対馬)	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎のホテルとかスーパーで販路開拓をしっかりとやるべき。みそ汁にして試食販売等をする結構広がる。売りに行くことが重要 ・(魚の出荷方法)冷凍・真空パックをやるといい。高知土佐市で、うるめいわしの3枚おろしの真空パックの製造をやった。機械は譲り受け6~7人の雇用になった
農業	米(五島) そば青汁(対馬)	<ul style="list-style-type: none"> ・粒径選別機を購入して1.9mm以下を除くと特選米ができる。特別栽培米の表示をして売れるパッケージのデザインは変更した方がよい ・スーパー等で決まった曜日、時間に試飲してもらうことが重要。また、生産者自らが販売することで、客の反応がわかる。商品にURLを書いておくことでリピーター増に繋がる
観光	古民家の活用(五島) サンゴ店(五島) 玄海オリンピック(対馬、五島他)	<ul style="list-style-type: none"> ・古民家で提供する飲食は、酒、地元米を利用したごはん、調理が簡単な魚の蒸し焼き、焙煎機が古民家にマッチするコーヒーなどが有効。また、回りの古民家等も活用して滞在プログラムをつくるべき ・愛媛県宇和島では、昔パールビズ運動をやった。(市職員に対し)珊瑚ビズをやってはどうか。職員がサンゴのピンをつける。それ何ですかと言われることがきっかけ ・以前、対馬や五島、壱岐の住人が参加した「玄海オリンピック」が盛り上がっていた 国境離島間の文化交流も重要
その他	酒造(五島)	<ul style="list-style-type: none"> ・(上記で選別された)1.9mm以下の米を利用して「米焼酎」を造れる。装置に通常1千万位かかるがバケツで製造すると300万円できる。そのプラントを教室におけばよい(地域起こし協力隊員に対し)免許取得に1年かかるが、卒業までに取得して、起業してはどうか

